

てがたんレポート Vol. 5 No. 1 (2008年1月：通巻46号)

2008年1月12日のてがたんは雨のため中止になったので1月5日の下見時の観察結果を報告します

- ・ 観察コースと内容：鳥の博物館→フジ棚→アメリカプラタナスの木→芝生広場→鳥の博物館
- ・ 観察日時／天気：2008年1月12日（土）10:30～12:00／晴れ
- ・ スタッフ:12人（敬称略・五十音順）：青木義尚、石原直子、伊藤茂子、木村稔、小泉信夫、中井清子、古川克彌、松村定雄、保田行弘、湯瀬一栄
- ・ 鳥博職員：斉藤安行、岡廣志、村松和行

観察記録ー1月に観察した生き物リストー

★観察した生き物

【鳥類】 カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、コガモ、オナガガモ、オオバン、セグロカモメ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、オオジュリン、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

【昆虫】 プラタナスグンバイ、ヨコヅナサシガメ、ヒメアカボシテントウ、ヒロヘリアオイラガの繭

【その他】 コカニグモ

【植物】

樹木（樹皮） シダレヤナギ、ソメイヨシノ、ニセアカシア、アメリカスズケカケノキ、マルバヤナギ、ナガバノカワヤナギ、ノダフジ、アカメガシワ、ムクノキ、ケヤキ、エノキ、ウメ、メタセコイア、アメリカハナミズキ、ヤマハンノキ、カツラ、ハンノキ、ミズキ、サルスベリ、ハゼノキ、アカマツ、クロマツ、コブシ

1月の観察アルバム

1月のテーマは「大寒の生き物を探そう」でした！

～松を見分けよう！～

クロマツとアカマツの違いは？

クロマツ

- ①樹皮が黒い
- ②新芽は白い
- ③触るとチクチク

海岸近くに生える
海の松でお正月の
飾りによく使われ
ると言われている。

アカマツ

- ①樹皮が赤い
- ②新芽は赤い
- ③触っても痛くない

低地や山地などに
生える山の松で西
日本に多いと言わ
れている。



クロマツ



アカマツ

冬の樹皮を観察！



カキの木のように細かい割れ目が
きれいです。秋には色鮮やかに紅
葉します。

アメリカハナミズキ



あまり特徴のないハゼノキの
樹皮ですが、枝はクルミのよ
うな面白い形をしています。

ハゼノキ



まだら模様が特徴のアメリカスツカケノ
キ。でも年を取った根元の樹皮は縦に割
れていきます。まるで別の木みたいです。

アメリカスツカケノキ



おもしろい雄花と去年の実が残る
のが特徴です。湿地などに生える
樹木です。

ハンノキ



明瞭な縦の割れ目と枝に2つ対称に付
く冬芽が特徴です。紅葉した葉は香ば
しい香りがします。

カツラ



ムクノキのような縦に割れた
樹皮。荒地などに初めに進
出する先駆性植物（パイオニ
ア植物）

アカメカシワ



手賀沼沿いの遊歩道に最も多く植えら
れているニセアカシアはマメ科の樹木
でゴツゴツとした肌と割れ目が深い
のが特徴です。

ニセアカシア



←観察ルート

樹皮の下で越冬する昆虫たち



アメリカスツカケノキに
つくアメリカ原産の外来
種です。夏に大量発生！？

フラタナスゲンバイ



黒い体に一對の赤い斑が
あります。カイガラムシ
を食べる益虫です。

ヒメアカボシテントウ

今月見つけたクモ

体長は4～5mm、カニグモ科に属します。
徘徊したり待ち伏せしてエサを探します。

よく見ると足先
の色は茶色味が
ある



カニグモ科は
平たい体の特徴

コカニグモ